

別府市新図書館等整備基本計画

ポストコロナ版

令和3年3月

別府市教育委員会

目次	．．．	01
はじめに -本計画の位置づけ-	．．．	03
第1章 基本計画 ポストコロナ版	．．．	05
1 コロナ禍を経験したことで生じた新たな都市課題と図書館の役割	．．．	06
2 新図書館の理念について	．．．	07
3 新図書館等のサービス目標	．．．	08
4 新図書館等の建設計画	．．．	11
5 管理・運営の基本方針	．．．	13
6 事業スキーム及び収支（概算）の想定	．．．	14
第2章 オープン・プラットフォーム会議の報告	．．．	15
第3章 実証事業の報告	．．．	21
資料編 オープン・プラットフォーム会議アンケート比較	．．．	39

はじめに -本計画の位置づけ-

令和2年3月に、別府市新図書館等整備基本計画（以下、「基本計画」という。）を取りまとめた。

基本計画では、都市政策課題の解決のために、分野ごとに議論されてきたそれぞれの課題を、多種多様な立場の人々が共有し、強みをつなげ、課題解決や変化に対応する新しい価値やサービスを生み出す場を、図書館の役割であると位置づけた。基本理念に「ひとりひとりの暮らしと創造のよりどころへ」を掲げ、『教育』・『健康・福祉』・『産業』・『アート』・『まちづくり』に貢献する地域の創造拠点として、また、市民が憩い、安らぎ、暮らしを楽しみサードプレイス（※1）としての公共空間として機能することを目指している。

ところが、令和2年春以降の新型コロナウイルス感染症拡大により、わたしたちの暮らしは、わずかの期間に変化を余儀なくされた。

本計画は、コロナ禍を経て、図書館の機能や役割について、施設やサービスの計画の面からポストコロナ社会の変化に対応する『流行』と、時代を経ても変化しない本質的な『不易』について整理し、リアルな場として図書館の付加価値をより向上させるとともに、新しい時代に求められるニーズを見通して、基本計画を再考察することを目的とする。

なお、ここでは開館時に具備できる短期的な設備等と、中長期的視点で取り組むべき目標について併記している。ここに掲げる資料・情報サービスや機能を実現する中長期計画については、今後の運営計画にて検討を進める。

※1 サードプレイス：コミュニティにおいて自宅や職場（学校）とは離れた心地よい第3の居場所

第1章

基本計画 ポストコロナ版

1 コロナ禍を経験したことで生じた新たな都市課題と図書館の役割

コロナ禍を経て、本市において生じた新たな都市課題と図書館の役割を整理する。

(1)新たなサードプレイスとしての図書館

学校・仕事に限らず、外出やイベント自粛など人が集まる活動、意図せぬ出会い・交流の機会を失ったことで、不安やうつなどの精神疾患の発症は全国的に増加傾向にあると言われている

(※2)。また、リモートワークが浸透したことで、共創やイノベーションが起きづらい環境になっている。コロナ禍によって、リアルに集まることの価値が再認識されている。リアルだからこそ得られる本と出会い（セレンディピティ）や蔵書の質、空間づくりを追求する。

(2)多様な産業を生む場としての図書館

コロナ禍を経験したことで、特定の産業に依存した産業構造に対するリスクが明らかになった。市の産業政策に応じて、多様な価値、サービスを生み出す図書館としての役割が一層求められる。

(3)分散型・オンライン化など、新たな生活様式に対応した図書館

コロナ禍によって社会のデジタルトランスフォーメーション(※3)が急速に加速し(※4)、ICTやデジタルツールがコミュニケーションの主流となったことで、デジタル情報への情報格差が新たな課題として浮上した。デジタルツールやデータベースの使い方、オンライン上での『情報』の探し方をサポートし、そこから何かを生み出すところまでを支えることが、知と情報の拠点である図書館の新たな役割となる。また、リモートワークが普及し、人々の生活様式が分散化したことで、オンラインサービスとリアルの役割分担が重要となってくる。

(4)自ら環境を作り出し、編集できる力を蓄えるための図書館

不確実な社会で生きていくために、子どもだけでなく大人にとっても、学びと成長を支える場が図書館である。社会に適応するための知識や能力を身につけるとともに、自分が欲する情報に的確にアクセスし、社会変化や課題と向き合う人材の育成・教育の場が必要となる。

※2 第4回新型コロナウイルス（新型肺炎/COVID-19）調査 eヘルスケア, 2020. 6
http://info.drsquare.jp/pr/TrackingCovid-19SurveyReport_wave4.pdf

※3 データとデジタル技術を活用して組織を変革させ、競争上の優位性を確立すること。

※4 日本における企業のデジタルトランスフォーメーション調査（2020年度）電通デジタル, 2020. 12
https://www.dentsudigital.co.jp/common/pdf/Digital_Transformation_2020.pdf

2 新図書館の理念について

基本理念に掲げた「ひとりひとりの暮らしと創造のよりどころへ」の実現に向けた5つの指針は堅持し、時代や環境の変化に対応する創造的な図書館を目指す。

3 新図書館等のサービス目標

基本計画では、もっぱら対面による資料・情報サービスや連携する機能・サービスについて計画している。コロナ禍を経て、デジタル化（※5）・リモート化（※6）に対応するサービスの必要性が高まる一方で、リアルな場としての資料・情報サービスには「関係性の再構築」が求められる。ここでいう関係性とは、「知」や「情報」を媒介にしながら、偶発的な出会いや気づき（セレンディピティ）を通して人と人・人と情報が出会い、「対話」や「活動」が醸成されていくコミュニケーションのあり方といえる。また、リアルであることの価値として、多様な人材や産業をつなぎ、新たな人材育成や産業創造の一翼を担う役割や求心力が求められている。それに十分対応し得る施設整備やサービス体制を構築し、まちづくりに貢献するためには、司書が提供する資料・情報サービスや選書など、司書やスタッフの研修機会を充実させ、ニーズに合ったサービスを提供できる人材育成に努めなければならない。

また、館内サービスのみならず、今後、オンラインサービス（※7）の強化やアウトリーチサービス（※8）の充足に向けた取組を段階的に進めるものとする。

中長期的視点で想定される機能・サービス事例（例）

偶発的な本・人との関係づくり（セレンディピティの誘発）
電子図書館・オンラインデータベースの提供
郷土資料のデジタル・アーカイブ
オンラインサービスの強化（レファレンス、学習・研究支援等）
デジタルツール支援、デジタル情報格差の解消

リアルな場での関係性の再構築とオンラインに対応するサービス展開



図書館と連携する機能・サービス（例）

学校図書館等とのネットワークの一元化
コンソーシアムの組成（有償データベースを安価で利用するため複数の自治体などによる連携を検討する。）
リモートライブラリープラス（本館から離れて（Remote）まちなかに分散する図書館。事業詳細は後述（P. 22））

地元事業者・市民が主体的に関わり、連携する、柔軟なサービス運営

※5 デジタル化：紙や書籍などアナログ媒体ではなく、パソコン・スマートフォン等で利用できるしくみ。

※6 リモート化：遠隔地で利用できること。図書館外、またはICTを介して利用できるサービス等を提供すること。

※7 オンラインサービス：インターネットを介して利用できるサービス。例えば、レファレンスや相談を、インターネットを介してできる、電子書籍や商用データベースを閲覧できる電子図書館サービス、予約貸出サービスなど。

※8 アウトリーチサービス：図書館以外の場所で、書籍や資料・情報サービスを利用できるしくみ。団体貸出、移動図書館をはじめ、図書館員による読み聞かせ、セミナー、まちなかに分散する図書館（リモートライブラリープラス）など。

(1)蔵書計画

基本計画では、蔵書数は時代に応じて柔軟に変化するが、将来的に 30 万冊程度収蔵可能なスペースを目安として検討する。



- ①開架空間における密を防ぎ、ゆとりのある読書環境、換気性能を確保するために、開架・閉架のバランスを考慮する。これにより生まれた空間には、デジタル化や新しい時代に対応した機能を導入するものとする。
- ②開架図書はセレンディピティを誘発する的確な選書や、検索機能の向上、定期的に開架・閉架図書の入れ替えを行うなど、図書館の資料・情報サービスの充実を図り、利用者の読書機会の損失を防ぐように務める。
- ③電子図書館、デジタル・アーカイブ化、データベース提供に積極的に取り組む。リアルな蔵書としてアーカイブすべき図書とデジタルデータとしてアーカイブする図書や情報の役割や性質を見極め、適正なバランスを保つ。電子図書館の導入は全国的にコロナ禍で増えている状況ではあるが、デジタルで提供されるタイトル数は現状では十分とは言い難い。今後のサービス拡充や費用負担等を含め、デジタルとリアル蔵書のバランスを運営計画にて詳細に検討する。

(2)年間来館者数

基本計画では、一定の目標値は、来年度以降定めるが、平成 30 年度時点の 14.3 万人から年間 50 万人を目指すとした。



- ①電子図書館やオンラインサービス、分散化など、リアルな場に訪れる利用者だけでなく、リモート・オンライン利用者を含めて考える必要がある。
- ②先進的な図書館ではすでに、オンラインサービスを強化しており、調査研究支援や学習支援、予約貸出や配送サービスなどの新たなサービスを展開している。
- ③コロナ禍において急速にデジタルトランスフォーメーションが進み、図書館に訪れなくても課題解決やリサーチ等、市民の知的活動を支える環境が整った。一方で、デジタル情報への情報格差も新たな課題として浮上した。これらの情報格差を解消する役割も図書館が担う。
- ④リモートライブラリーなどの分散型図書館、従来の移動図書館などのアウトリーチサービスを拡充することで、リモートに対応する資料・情報サービスを提供する。
- ⑤来館者数の一部がオンラインやリモートサービス利用者に置き換わるため、来館者数 50 万人という目標は、資料・情報サービス受給者 50 万人と設定する。

(3) 全域サービス

基本計画では、あらゆる市民が図書館サービスを利用できるよう、新図書館外の施設などを活用した図書館ネットワークを構築するとした。



- ① コロナ禍を経験し、働き方や学び方などがリモート・オンラインに対応していくなかで、それらの新たな生活様式に対応する資料・情報サービスのあり方、新たなニーズ、持続可能なしくみづくりの重要性が高まった。
- ② ポストコロナにおいても、分散型図書館やオンラインでの資料・情報サービスを提供することで、知との出会いを創出し、より探求を深めるために図書館を訪れたいくなる、探究心を育てる環境づくり、図書館への新たな入口を構築する。
- ③ 学習支援や調査研究支援、コミュニティ支援など、リモートでの司書による資料・情報サービスが受けられるようにする。
- ④ 小・中学校や大学など教育機関の蔵書管理システムの連携や電子図書館、データベースやデジタルアーカイブを共有するコンソーシアムやネットワークを段階的に整備する。
- ⑤ 公民を問わず様々な施設を活用し、資料・情報サービスを分散化する。
- ⑥ リモートワークやワーケーションなど新たな需要と資料・情報サービスを融合させることで、新たな働き方や暮らし方の価値を創造する。

4 新図書館等の建設計画

(1)規模

三密を避けるためには、自然換気や空調計画を綿密に立て、換気効率を上げつつ快適な室内空間を設計する。また、空間の大小を柔軟に可変できるような設えや、開架図書と閉架図書のバランスを考慮し、開架を減らすことでゆとりのある空間配置、人や書籍の密度を緩和する設計デザインにより、災害や感染症対策に対応する施設計画が可能である。

さらに実際に集う「場」の価値として、「知」や「情報」を媒介に、人と人が出会い、関係が醸され、新たな対話や活動を生むことがより一層重要となる。リアルだからこそ得られる本との出会い（セレンディピティ）を生む空間づくりを追求する。

以上のことから、空間の可変性を図るため、建築規模は基本計画時に示した規模とする。デジタル化・リモート化を推進するにあたり、それに対応するネットワークインフラやサーバ等のハード整備を中長期的視点で進めるものとする。

(2)建築計画の基本方針

ア 換気・空調計画

施設全体の換気が速やかに行われ、健全な室内環境を確保する設計が必要となる。機械換気等の換気設備を整えることは、気積の大きい図書館のような空間には現実的ではない。よって、所蔵書籍等に与える影響を十分配慮したうえで、建築の内外の空気が入れ変わりやすい自然換気や空間構造、窓や開口部の設定など施設内の空気の流れを考慮した設計を行う。

推奨基準：厚生労働省『「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法』（※9）より、ビル管理法の考え方に基づく必要換気量（一人あたり毎時 30m³）を満たすこととする。

イ フレキシブルな空間設計

ポストコロナの新しい時代における適切な空間設計を行う。通常時はオープンな空間とし、例えば災害発生時や感染症対策などの必要に応じて、分割して利用することも可能となる可変性・フレキシブルな設計デザインとする。そのためには、小さな集団での会合などが可能な空間的工夫や設えを用意しておく必要がある。

※9 厚生労働省『「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法』（2020年4月3日）
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000618969.pdf>

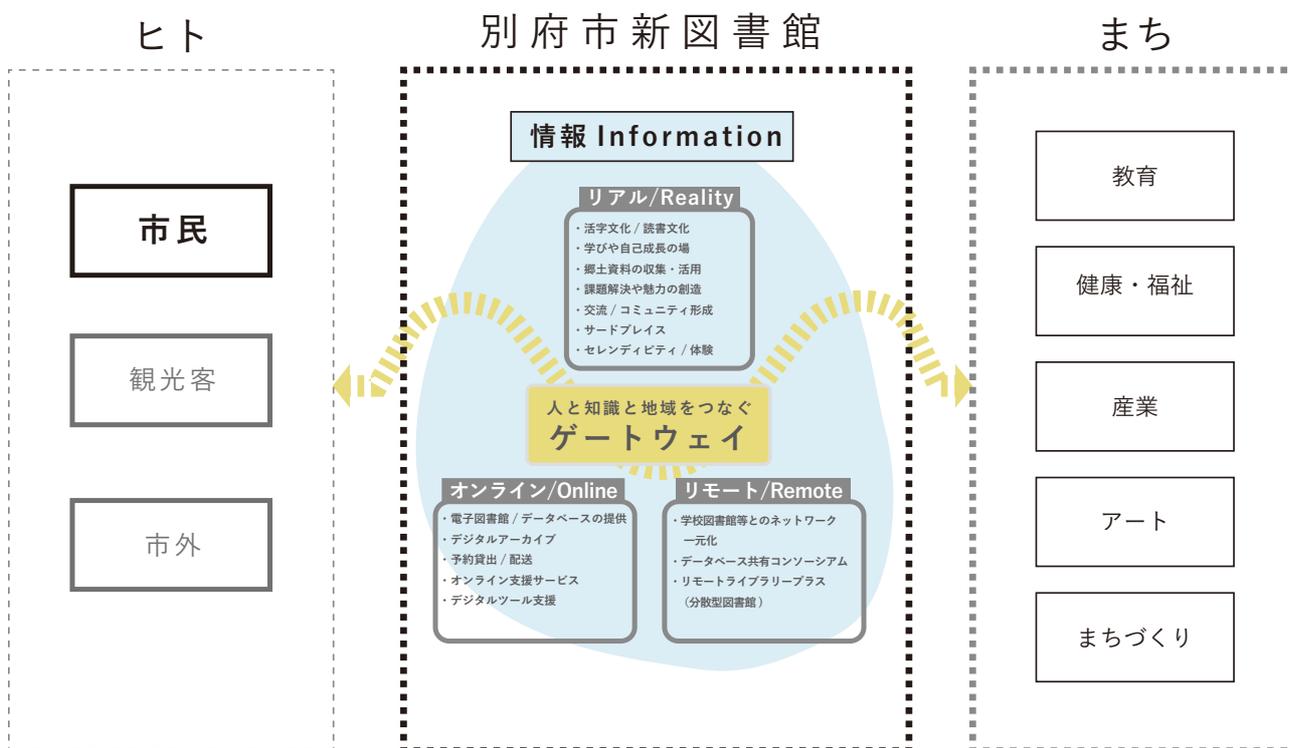
ウ デジタル・テクノロジーに適応する

今後、急速に発達するであろうデジタル・テクノロジーに柔軟に適応できる空間とする。デジタルツールやドローンなどを活用して、コミュニケーションの円滑化、サービスの多様化、及びそれらの質の向上や効率的な運営が行えるように拡張性のある空間とする。

5 管理・運営の基本方針

コロナを経て、教育、健康・福祉、産業、(アート)、まちづくりにおける様々な課題が明らかになった。リアルな場の価値を示すサービスや魅力の向上、デジタル化・リモート化など、より多角的な図書館運営が求められる。基本計画では、図書館サービス部門、連携機能部門、その部門を横断的につなぐマネジメント部門による運営を示し、役割分担として、図書館サービス部門を行政、マネジメント部門を公民連携組織、連携機能部門を民間事業者が主体となって担うとした。公民連携による施設運営は、直営である図書館を中心に地域や人と知識をつなぐゲートウェイとして、地域の様々な課題把握、課題解決を図っていくためにも、より重要なスキームとなる。オンラインでインプットした知識を、リアル(図書館)でアウトプットする、あるいは創造や体験をするといったそれぞれの役割を明確化し、従来の図書館サービスに留まらない、社会変化に対応する新たな取り組みやサービスを迅速に展開する柔軟な運営形態を目指す。

公民連携によって、 図書館がゲートウェイとなり、人とまちとの関係性を生み出す



6 事業スキーム及び収支（概算）の想定

デジタル化・リモート化を推進するにあたり、リモート環境や電子図書館などの整備コストの増加が想定されるが、できるだけ抑えるように、運営計画で慎重に検討する。

(1) 今後のスケジュール

工事発注までの手順や手続きを再検討し、令和7年度中開館予定と再設定する。

年度	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
建設		基本設計・実施設計	事業者選定	工事	開館
運営		運営計画		運営準備	

第2章

オーブンプラットフォーム会議の報告

1 オープン・プラットフォーム会議とは

新図書館等建設に向け、計画段階から市民の参画を促し、新しい図書館等のイメージを市民と共に共有することを目的とした公開型ミーティングを、今年度2回開催した。今年度は、コロナ対策として初のオンライン配信や後日の動画配信、オンライン会場のみの開催とし、オンライン上でも質問やオンラインインタビュー等を受け付けた。今年度は、オンラインでの市外参加者も多く、Vol.5ではコロナ禍を経て本や図書館の質的な役割、資料・情報サービスの分散化、その運営体制について、Vol.6では学びと成長を支える図書館のあり方、図書館が教育、学びのプラットフォームになるための役割や運営体制について議論した。

2 開催報告

Vol.5「コロナ禍を経て、図書館に求められるものとは？」

開催日：令和2年11月20日（金）19：00～20：30

会場：ビーコンプラザ中会議室＋オンライン配信（zoom ウェビナー）

参加人数：リアル会場 36人、オンライン会場 104人

アンケート回収：68件（アンケート回収率 48.5%）

ア プレゼンテーション

図書館はいつも、生活のかたわらにある。

1. 図書館はいまどうなっているのか。
2. 機能ではなく、切り口について話をしよう。
3. 図書館はいつも、生活のかたわらにある。

新しい図書館のカタチとして、分散する図書館（図書室）

より多くの市民に知識を届けるための、
分散する図書館（図書室）

エリアでの分散



普段、図書館を利用しない市民の方々への接客を機とするため、よりエリアとの親和性を高める。読書と空間などを提供する。

用途での分散

新図書館	統合的に様々な書籍を所蔵
分散した図書室	駅→中高生向けに選書
	ビジネス街→ビジネスマン向けの選書
	繁華街→ナイトエコノミー関連する選書
	商業施設、ホテル関連→ガイド本や文芸書籍を所蔵
また、小中高校や大学図書館との連携など	

コロナ禍を経て、オンライン化・デジタル化が急速に普及し、「場」に集うことのないリモート活動が至るところで進められるようになった今、インターネットでいつでもどこでも情報が手に入る時代における「書物」の未来、また、オンライン化やリモート化が広がるこれからの社会においてリアルな「場」としての図書館の価値とはいったい何か？をプレゼンテーションした。

16

プレゼンター①：染谷 拓郎氏（日本出版販売株式会社リノベーション推進部）

本が日常品から嗜好品に変わりつつある社会で、日常の延長に図書館があり続けるために「時間」や「まち」を切り口とした図書館のあり方、本の出会い方を提案いただいた。

プレゼンター②：馬渡 侑佑氏（九州アイランドワーク株式会社代表取締役社長）

より多くの市民に知識を届け、課題解決に貢献するための、分散する図書館や、地域や民間企業による分散型図書館の運営について提案いただいた。

イ ディスカッション

登壇者：染谷 拓郎 氏（日本出版販売株式会社リノベーション推進部）

馬渡 侑佑 氏（九州アイランドワーク株式会社代表取締役社長）

池田 睦 氏（一般社団法人B-biz LINK 地域経済活性化アドバイザー）

馬場 正尊 氏（株式会社オープン・エー 代表取締役）



リアル、オンライン会場の参加者から休憩時に回収した意見、質問の中からテーマを抽出し、登壇者がディスカッションを行った。会場からは「分散型図書館の運営はどのようにしたらよいか」「高齢者やデジタル機器を持っていない人たちへのサービスはどうするか」「別府らしい図書館とは何か？」等といった質問が挙がり、公民連携による図書館運営のしくみやテクノロジーの活用、Uberのような宅配と見守り、コロナ後の新しいコミュニケーションのかたち、別府が積み重ねた知識から新しい知恵を創造するなど、市民一人一人のための図書館のあり方やしくみについてディスカッションを行った。

Vol.6 「コロナ後の図書館は、学びと成長の場としてどのように変化するか？」

開催日：令和3年2月12日（金）19：00～20：30

会場：オンライン配信（zoom ウェビナー）

参加人数：オンライン会場 93 人

アンケート回収：31 件（アンケート回収率 33.3%）

ア プレゼンテーション



コロナ禍は、教育の現場にも大きな変化をもたらし、学習環境の変化はもちろん、これからの教育のあり方や人々の価値観、社会のシステムが変わる可能性がある。「社会に適応するための知識や能力を身につけ、磨く」教育から、「自分が欲する情報に的確にアクセスし、自ら環境を作り出し、編集できる力を蓄えるための学び」へ。学びと成長を支える場である「図書館」の役割は、私たちは何を学び、子どもたちはどんな力を身につけてほしいのか、図書館ではどんな新しい学びのカタチが提供できるのかプレゼンテーションした。

プレゼンター①：渡邊 賢太郎 氏（おせっかい社かける共同創業 C00）

子どもたちが自ら興味を持つ課題や仲間を見つけ、起業家精神を育む場としての図書館で出会い、学校で身につけた知識を実践する場となるためのプログラムについてご提案いただいた。

プレゼンター②：西山 恵太 氏（株式会社 Curio School 代表取締役）

自ら未来を描き、価値を創造して実現していく人を育てる「創造力を育む図書館」として、地域の課題解決を中高生がアイデアをつくり試す、多様な人々のコミュニケーションを生む余白の場についてご提案いただいた。

イ ディスカッション

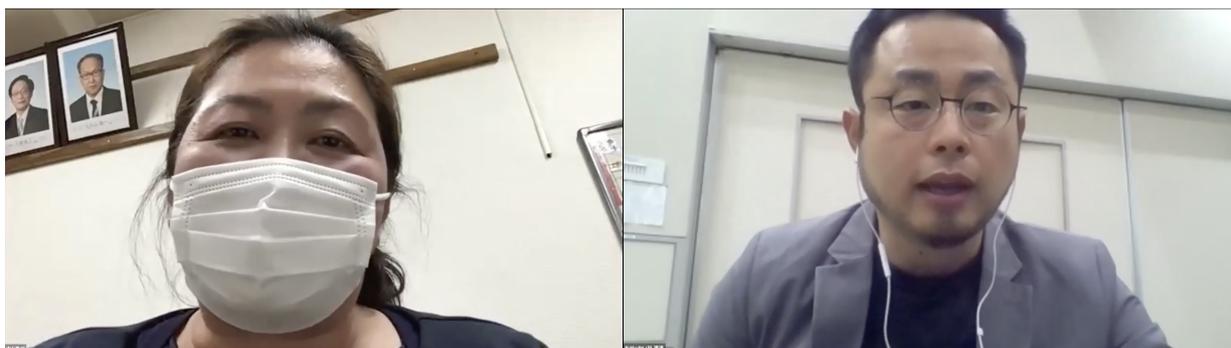
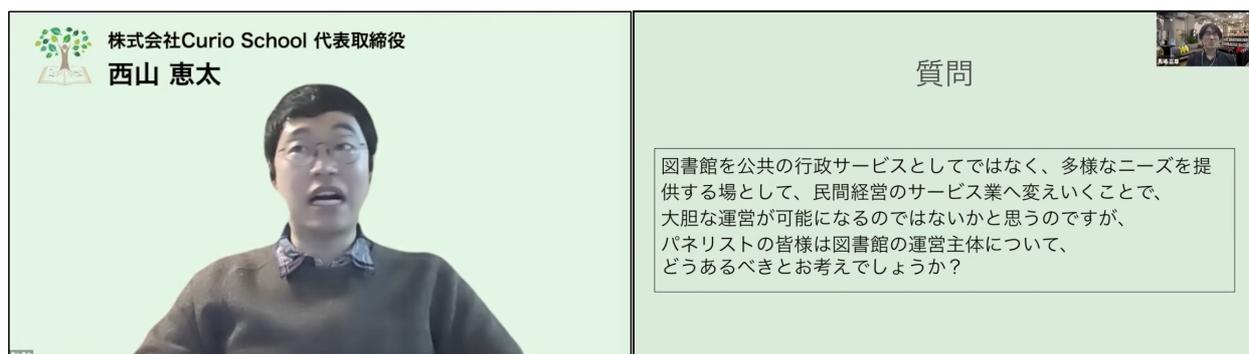
登壇者：渡邊 賢太郎 氏（おせっかい社かける共同創業 C00）

西山 恵太 氏（株式会社 Curio School 代表取締役）

池田 睦 氏（一般社団法人 B-biz LINK 地域経済活性化アドバイザー）

馬場 正尊 氏（株式会社オープン・エー 代表取締役）

稲尾 隆（別府市教育部長）



オンライン会場の参加者から休憩時に回収した意見、質問の中からテーマを抽出し、登壇者がディスカッションを行った。また、コロナ禍において教育現場はどう変わったか、境川小学校、山の手小学校の教員 3 名から、学校現場の意見を頂いた。「タブレットが全校配布されるがどう教えたらいいか」「家庭環境の格差が教育格差や情報格差にならないようにどうすべきか」「保護者の心配、不安ごとのセーフティネットとして図書館と教育現場がどう連携するか」という意見を頂いた。

自ら学ぶ姿勢を子どもたちに教えること、子どもたちの居場所やサードプレイスといった余白の場が図書館にあることでコミュニケーションを生み、一人一人の悩みを解決すること、公民連携による中長期的な運営体制づくりなど、図書館が教育、学びのプラットフォームになるための役割や運営体制についてディスカッションした。

第3章

実証事業の報告

1 事業の目的

別府市新図書館整備事業では、これまで「図書館に人が集まる、図書館で多様な人材が交わる」ことが新図書館整備においては重要な視点であった。しかし、新型コロナウイルス感染症により、様々な変化を余儀なくされる中、一か所に人を集めるだけでなく、様々な場や施設を活用し、図書館サービスを分散化する機能も必要ではないかと考えた。

本事業では、分散型の図書館サービスの提供可能性や市民ニーズについて、実証実験を通じて、コロナ禍を経験して、働き方や学び方などが『リモート』『オンライン』という新しいスタイルに対応していくなかで、リモートに対応する図書館サービスのあり方を検討し、持続可能なしくみや市民ニーズを検証する。

2 事業実施概要

(1) 事業名

Remote Library + (リモートライブラリープラス)

(2) 事業の目的

まちなかで、本と偶然の出会いを生むライブラリー機能と、働く場・学ぶ場・話す場・くつろぐ場など、滞在したくなる『+α』の場が融合したライブラリーデスクを設置する。本との出会いと場をデザインすることで、日常生活での予期せぬ本との出会いを創出する。その利用実態から、新しい時代における持続可能な仕組みやニーズを検証することが目的である。

(3) 実施概要

- ① 実施期間：2021年（令和3年）1月13日（水）～2月19日（金）
- ② 設置場所／利用時間／休館日：
 - ・別府市役所 1階総合受付横／8:30～17:00／土日祝休み
 - ・別府駅東口 ワンダーコンパス内／9:00～18:00／休みなし
 - ・トキハ別府店 地下1階フードコート／10:00～19:00／店休日（1/27）休み
- ③ 主催：別府市教育部社会教育課
- ④ 運営企画：株式会社オープン・エー、九州アイランドワーク株式会社
- ⑤ 利用料：実証事業の間は、予約不要・使用料無料
ただし、予約機能の検証のため、一部の座席を予約制（無料）にした。予約方法は、九州アイランドワーク開発のアプリに登録すると、予約できるようにした。
- ⑥ 検証方法：カメラAI解析システムと連携し、利用率、利用者属性、滞在時間等をAI解析する。（原則無人管理）

(4) 設置状況

ア 別府市役所



イ ワンダーコンパス



ウ トキハ別府店



(5) Remoto Library+の機能

ア ブックセレクト

場の利用者に応じた本を提案した。選書は、主に、立命館アジア太平洋大学 (APU) 出口学長、松本記念児童図書館「おじいさんのもり」高橋館長がそれぞれ推薦する本を各所に 40～44 冊程度、合計 125 冊を設置した。



イ +αスペース

働く場・学ぶ場・話す場・くつろぐ場など、滞在したくなる『+αスペース』として設置。デスク・チェア4席、電源・フリーWi-Fiが誰でも利用でき、原則予約なしでも利用できるが、座席の一部は予約可能とした。予約サービスは、九州アイランドワークのWEBサイトから受付できるようにした。本棚、デスク、チェアはコンパクトに収容でき、移動可能なくみとしたことで、今後どこへでも移動でき、展開しやすいデザインとなっている。

本棚
Book select
ブックセレクト
場の利用者に応じた本の提案しています。選書は、立命館アジア太平洋大学 (APU) 出口学長^{※1}、松本記念児童図書館「おじいさんのもり」高橋館長、別府市長がそれぞれ推薦する本を設置しています。

※1 エアエム大が「APU学長 出口治明のおススメの一冊」(隔週土曜日12:28-)にて選出された書籍です。

+αスペース WiFi・コンセント付
supported by 九州アイランドワーク
WEBサイトからデスクの予約(無料)が可能です。予約は、下のQRコードからサイトにアクセスしてご予約ください。予約する場合は登録が必要です。
※ 実施期間である2021年1月13日から利用できます

はたらくを
オフィスから
開放する。
KIWI

予約サイト
QRコード

充電スポット

移動可能なくみ

組み立て式 テーブル+椅子
[折たたみ式・積み重ね可能]

3 事業実施結果

(1) 利用者数、年代・属性分析

ア 調査概要

調査期間：2021年1月19日（火）～2月19日（金）

利用システム：Panasonic vieureka

調査方法：

IoTカメラと画像解析アプリを活用したAI解析を活用した。IoTカメラにより利用者数、属性情報（性別、年齢、滞留時間）を収集・データ化し、設置場所における利用率や利用者属性を比較・検証し、今後、本格実施を検討する上でのデータとして活用する。IoTカメラ内で画像解析を行い、画像はIoTカメラ内で破棄されるため、利用者のプライバシーは保護される。

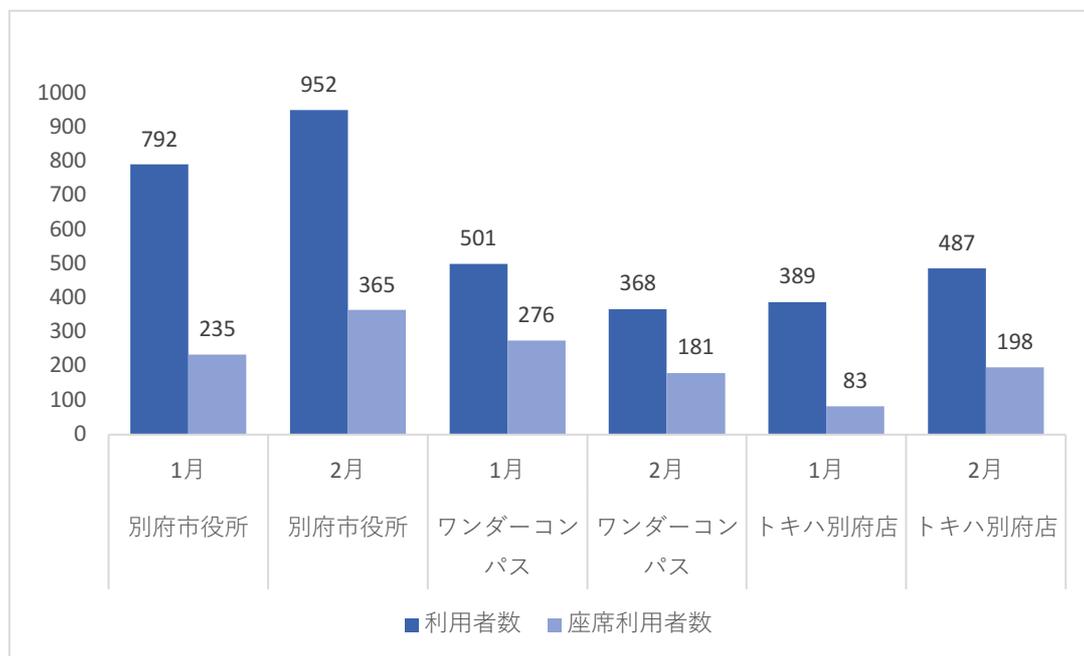


調査日数（調査期間中）：

別府市役所	1月…9日間	2月…14日間	（土日祝除く）
ワンダーコンパス	1月…13日間	2月…19日間	
トキハ別府店	1月…12日間	2月…19日間	（1/27 店休日を除く）

イ 調査結果

・利用者合計



・1日平均利用者数（合計利用者数／稼働日数）

別府市役所 : 1月…88人 2月…68人
ワンダーコンパス : 1月…38人 2月…19人
トキハ別府店 : 1月…32人 2月…26人

・1日平均座席利用者数（合計座席利用者数／稼働日数）

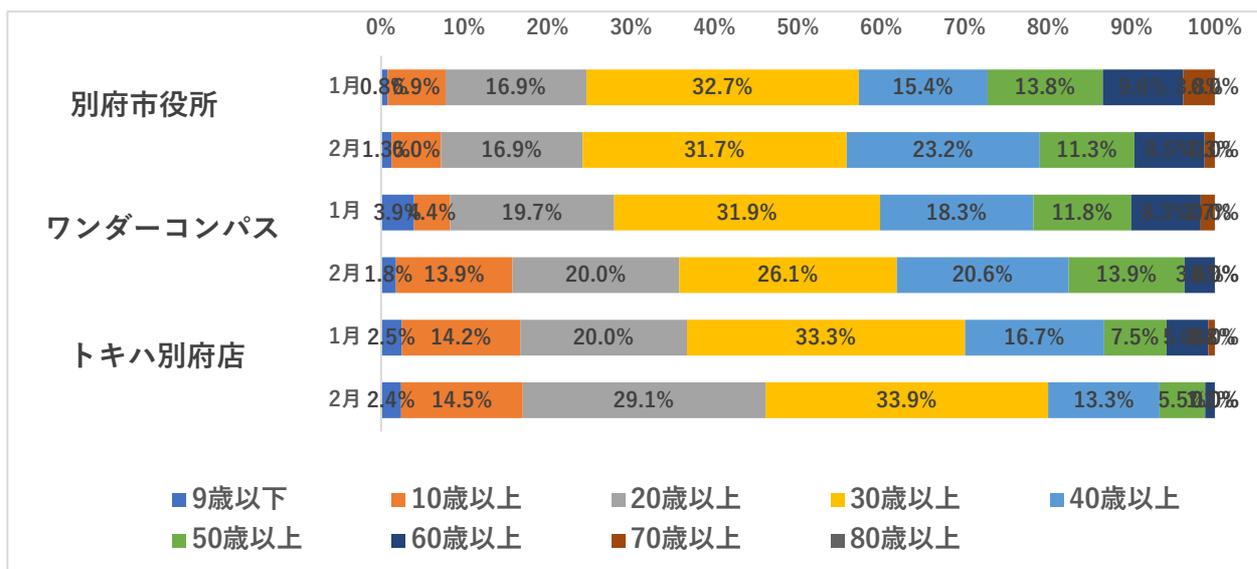
別府市役所 : 1月…26.1人 2月…26.1人
ワンダーコンパス : 1月…21.2人 2月…9.5人
トキハ別府店 : 1月…6.9人 2月…10.4人

・予約利用者数

4件（別府市役所：2、ワンダーコンパス：1、トキハ：1）

- ・別府市役所の利用者数が最も多く、一日約70～90人近い人が利用した。
- ・ワンダーコンパス、トキハは別府市役所の半数程度の利用者数で、1月は約30～40人／日近く利用したが、2月は約20～25人／日とやや減少した。
- ・座席利用者数は、別府市役所が約26人／日と多く、ワンダーコンパスも1月は約21人／日と多かったが、2月はトキハ別府店と同程度の約10人／日と減少した。

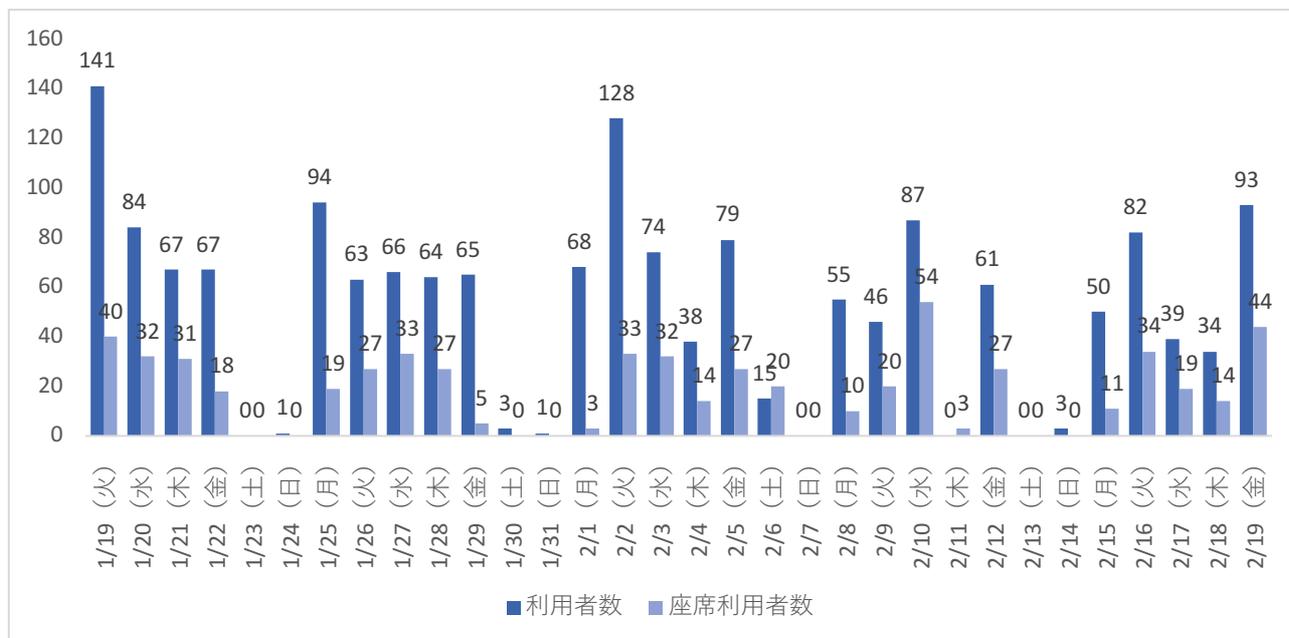
・年齢別利用者割合



- ・全体として、20歳代から40歳代の利用者がおおむね7割を占めていた。
- ・別府市役所 : 20、30代の利用者が多い。50代以上の利用が他の場所より多い。
- ・ワンダーコンパス : 1月は30代、2月は10代の利用者が急増している。全世代通じて偏りなく利用されている。
- ・トキハ別府店 : 9歳以下、20代の利用が多い。50代以上の利用が相対的に少ない。

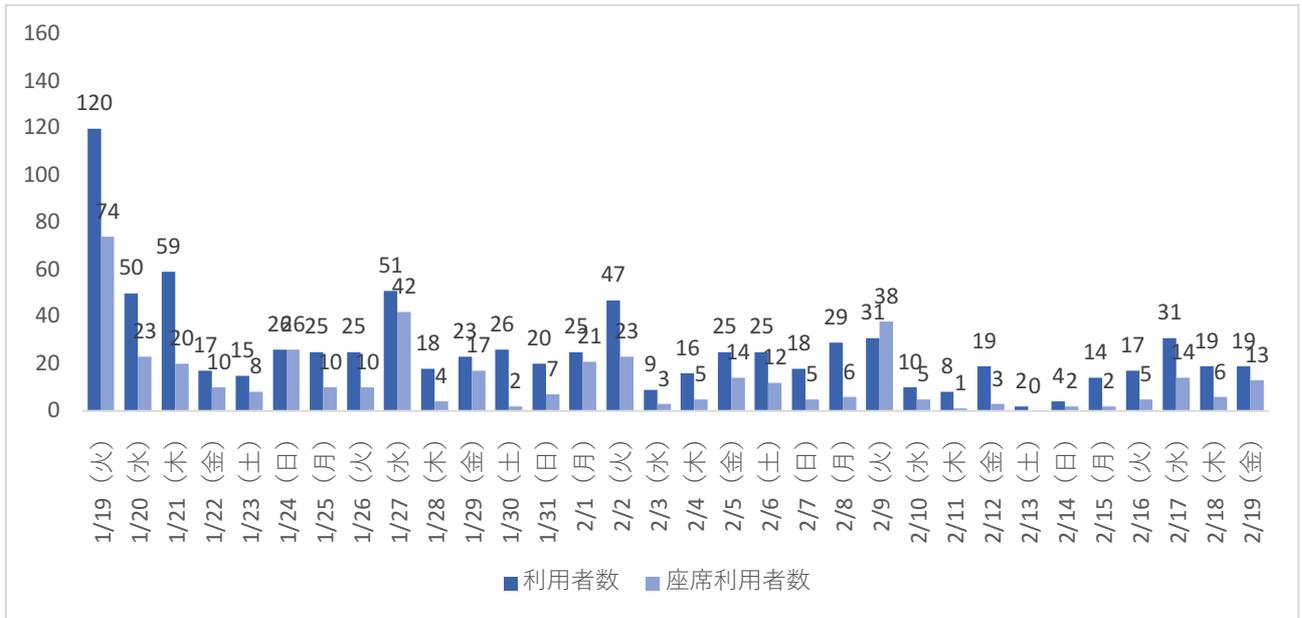
・日別利用者数

別府市役所



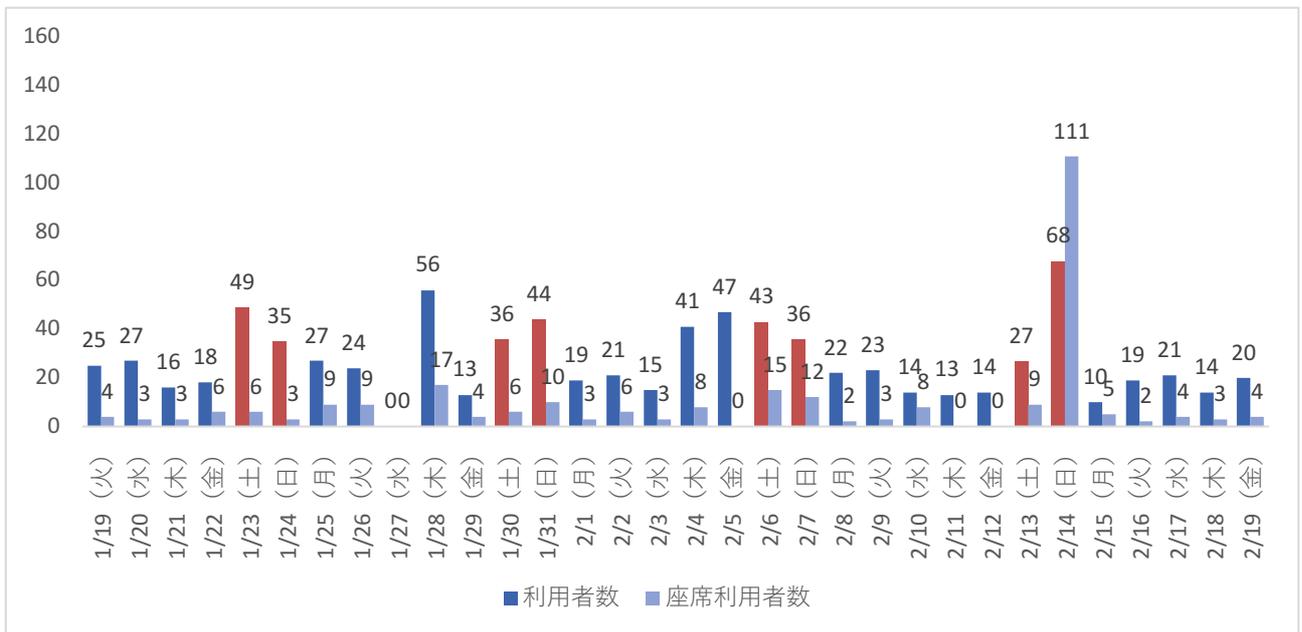
- ・曜日による利用者数の偏りは見られなかった。
- ・120人超の利用者がある日もあれば、30人弱の日もあり、利用者数にはバラつきが見られる。
- ・期間中を通して、コンスタントに利用されている。

ワンダーコンパス



- ・設置直後の利用者数が最も多く、その後はゆるやかに利用者が減少している。
- ・観光客が多く訪れる土日の利用者が多いと予想していたが、平日の方が多かった結果となった。

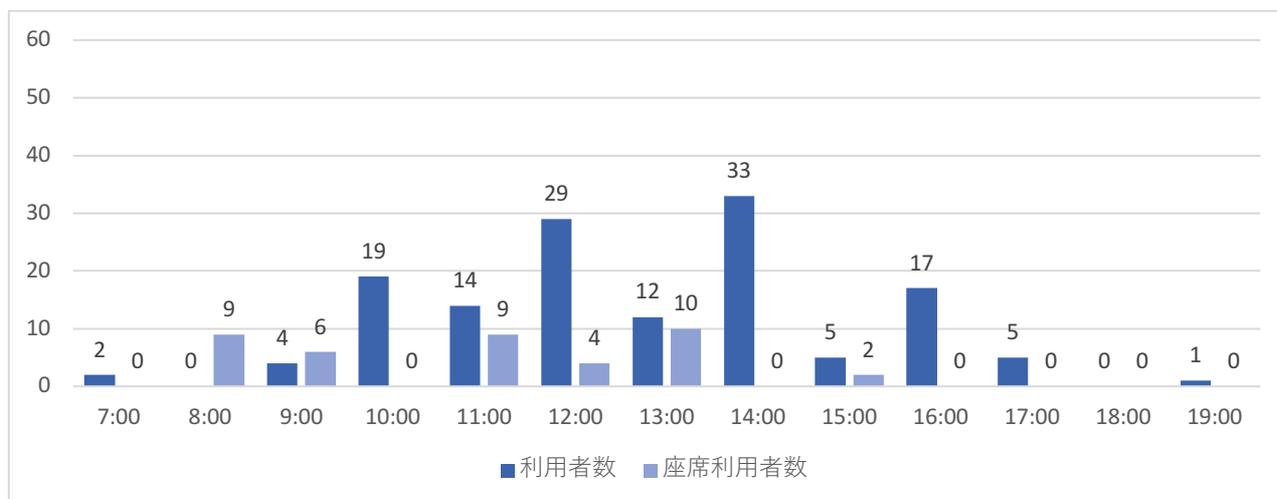
トキハ別府店



- ・比較的土日の利用者数が、平日より多くなっている。
- ・2/14（日）の座席利用者数が多くになっているが、動線分析を見ると、同じ利用者が何回か往來して利用している可能性が高い。（カメラ検知範囲から一度外れると、違う人として新たにカウントされるため。）
- ・利用者数に比べ、座席利用者数が比較的少ない。設置場所の周辺にフードコートのテーブル、ソファベンチなど滞在空間が他にあることが影響していると考えられる。

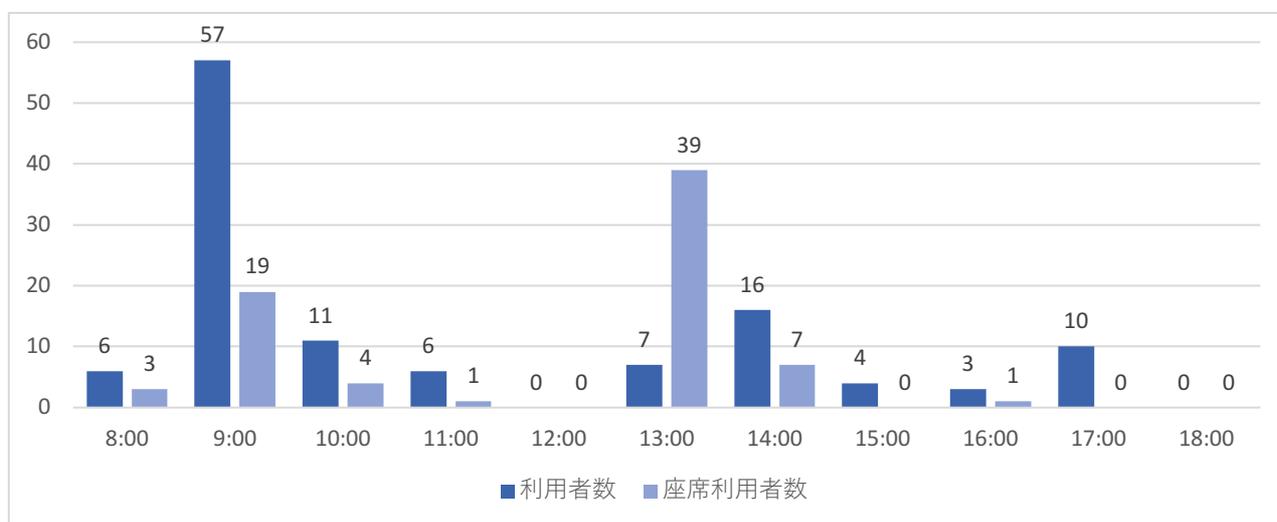
・時間帯別利用者数

別府市役所 (1/19)



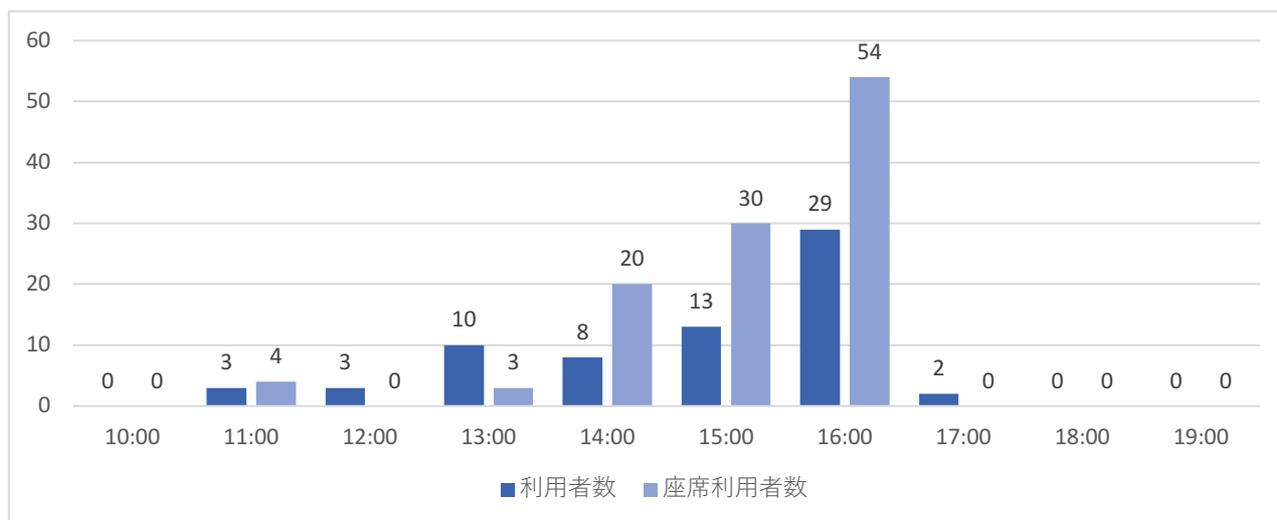
- ・利用時間帯は、もっとも利用者が多い日で検証する。
- ・利用者が多い時間帯は、12:00、14:00、10:00、16:00。昼食時間及び午後の利用者が多い傾向がある。
- ・座席利用者数は、逆に午前～13:00が多くなっている。

ワンダーコンパス (1/19)



- ・利用者が多い時間帯は、9:00が最も多い結果となっている。
- ・座席利用者数は13:00が最多となり、偏りが大きい。
- ・11:00～12:00台、15:00以降の利用者が非常に少ない。

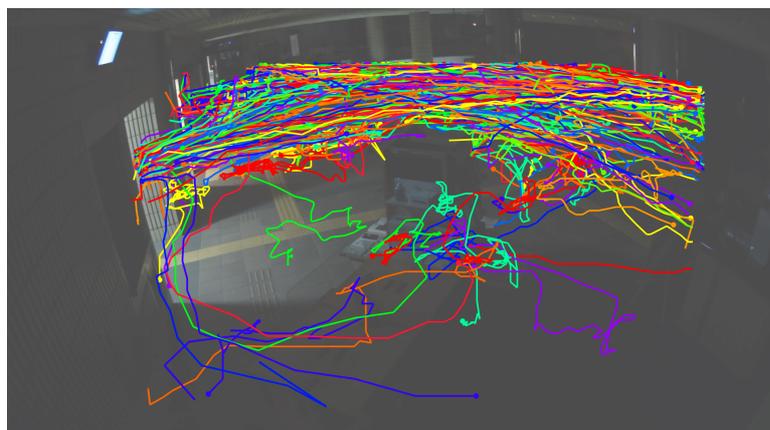
トキハ別府店 (2/14)



- ・利用者が多い時間帯は、16:00 が最も多い結果となっている。
- ・座席利用者数も同じく 16:00 が最多となり、14:00～16:00 にかけて利用者が増えている。

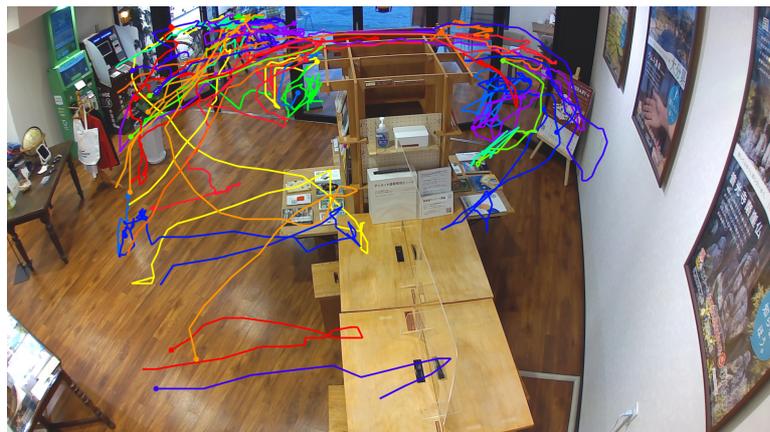
・動線分析

別府市役所 (1/19 12:00-13:00)



- ・本棚へはエントランス側から来た人が近づいてきて利用する動線が多いが、座席利用者はエレベーター側からくる人が多い。

ワンダーコンパス (1/19 12:00-13:00)



- 本棚のまわりをぐるりと回っている様子が確認できる。
- 座席は店内側（壁に向かう側）の方がよく利用されている。

トキハ別府店 (2/14 16:00-17:00)



- 座席利用者が何度も行き来している様子が確認できる。
- 本棚からフードコート側に移動する人の動線も確認できる。

(2) アンケート調査結果

調査期間：2021年1月13日（水）～2月19日（金）

調査方法：・アンケート用紙を回収ボックスに投函

・QRコードをスマホ等で読み込むオンラインアンケート

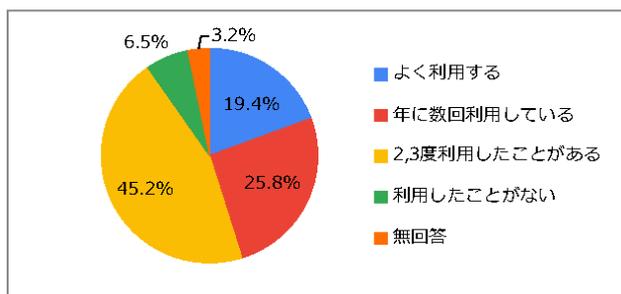
回答者数：31名

結果概要：

- ・図書館をよく利用する人より、年に数回～2、3度利用している人が利用している。図書館のライトユーザーがより利用しやすいサービスとなり得る可能性がある。
- ・座って本を読む人が多く、待合せや電源・WiFi利用など本を読む以外の利用も2割程度あった。
- ・30分以下の利用が8割以上を占め、短時間で利用する人が多い。
- ・欲しい機能として「本の貸し借り」「本の取り寄せや要望機能」が約2割ずつを占めた。
- ・利用満足度は高く、今後も利用したいという声が8割以上となった。利用する世代にも偏りが少なく、20～60歳以上まで幅広い世代に利用された。
- ・公共交通機関、温泉・公衆浴場に欲しいという意見が約15%ずつを占めた。

1 現在、図書館を利用していますか

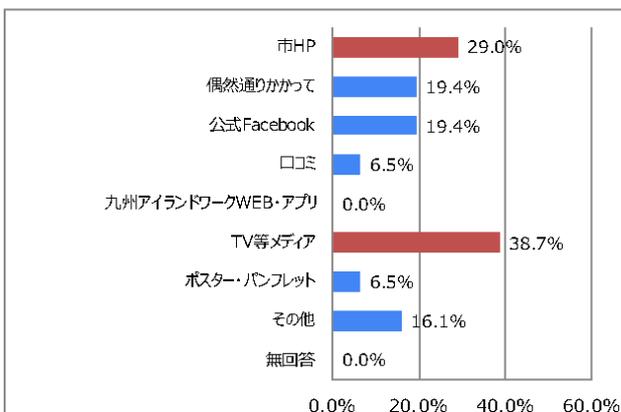
項目	回答数	%
よく利用する	6	19.4%
年に数回利用している	8	25.8%
2,3度利用したことがある	14	45.2%
利用したことがない	2	6.5%
無回答	1	3.2%
小計	31	100.0%



- ・「よく利用する」が約20%を占めた。
- ・「2,3度利用したことがある」が約45%と最多であった。

2 Remote Library+をどこでお知りになりましたか？

項目	回答数	%
市HP	9	29.0%
偶然通りかかって	6	19.4%
公式Facebook	6	19.4%
口コミ	2	6.5%
九州アイランドワークWEB・アプリ	0	0.0%
TV等メディア	12	38.7%
ポスター・パンフレット	2	6.5%
その他	5	16.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	31	



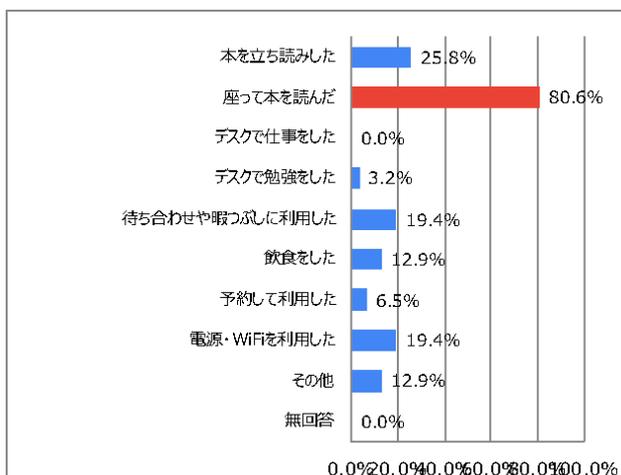
<その他>

- 市報4 朝日新聞
- Facebookのシェア

- ・TVメディアが約38%、市HPが約30%を占めた。

3 Remote Library+をどのように利用しましたか？

項目	回答数	%
本を立ち読みした	8	25.8%
座って本を読んだ	25	80.6%
デスクで仕事をした	0	0.0%
デスクで勉強をした	1	3.2%
待ち合わせや暇つぶしに利用した	6	19.4%
飲食をした	4	12.9%
予約して利用した	2	6.5%
電源・WiFiを利用した	6	19.4%
その他	4	12.9%
無回答	0	0.0%
回答者数	31	



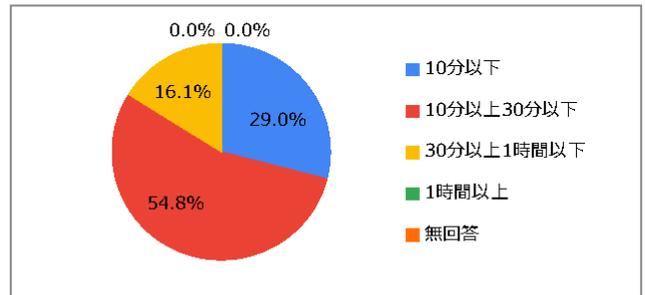
<その他>

- 全体の様子、配置をみた
- 子連れで疲れていたので休憩した
- 子どもが絵本を読んだり、お絵かきした
- 新聞でみたので見学にきた

- ・「座って本を読んだ」が80%以上を占めた。
- ・「本を読む」以外の用途では、待合せや暇つぶし、電源・WiFiの利用、飲食が多い。

4 滞在時間はどのくらいですか？

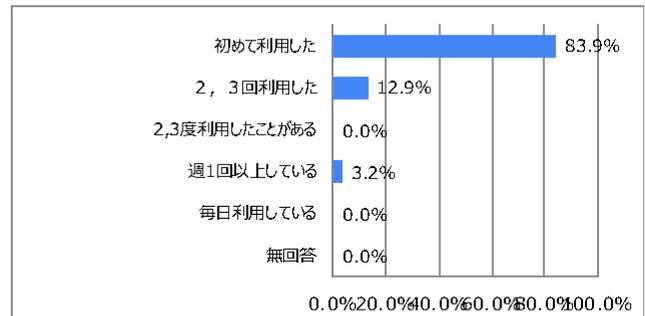
項目	回答数	%
10分以下	9	29.0%
10分以上30分以下	17	54.8%
30分以上1時間以下	5	16.1%
1時間以上	0	0.0%
無回答	0	0.0%
小計	31	100.0%



- ・「10分以上30分以下」が最多で約55%を占めた。
- ・30分以下の利用は、約84%を占めており、短時間での利用が多い。

5 利用頻度はどのくらいですか？

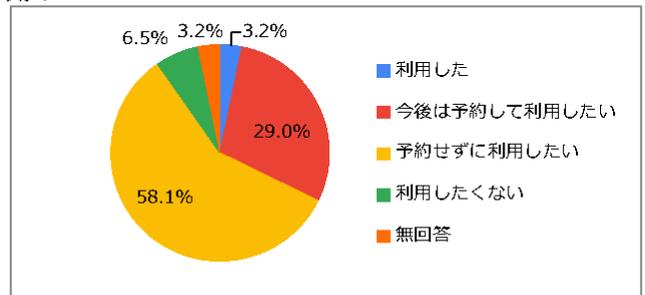
項目	回答数	%
初めて利用した	26	83.9%
2, 3回利用した	4	12.9%
2,3度利用したことがある	0	0.0%
週1回以上している	1	3.2%
毎日利用している	0	0.0%
無回答	0	0.0%
小計	31	100.0%



- ・「初めて利用した」が約84%だが、リピーターも約15%程度いた。

6 WEBサイトから座席を予約できるサービスを実装していますが、利用したいですか？

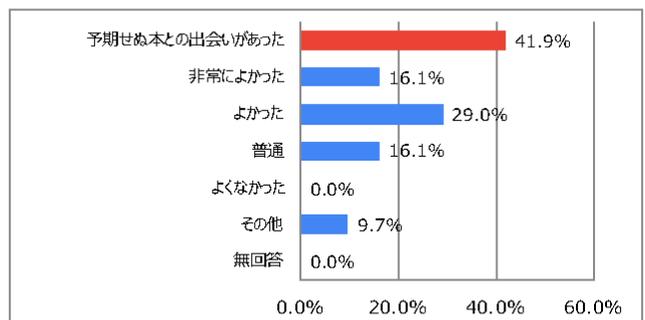
項目	回答数	%
利用した	1	3.2%
今後は予約して利用したい	9	29.0%
予約せずに利用したい	18	58.1%
利用したくない	2	6.5%
無回答	1	3.2%
小計	31	100.0%



- ・「予約せずに利用したい」が約6割を占めた。
- ・「利用した」「今後は予約して利用したい」は約3割以上を占めた。

7 ブックセレクト（選書）はいかがでしたか？

項目	回答数	%
予期せぬ本との出会いがあった	13	41.9%
非常に良かった	5	16.1%
よかった	9	29.0%
普通	5	16.1%
よくなかった	0	0.0%
その他	3	9.7%
無回答	0	0.0%
小計	31	



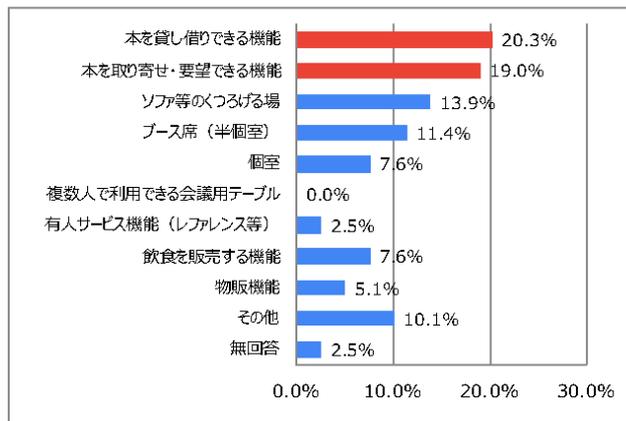
<その他>

絵本は参考になりました
他にも見たいと思ったけれど時間の都合で1冊しか見れなかった
中途半端なセレクト。ターゲットがどこなのかわかりにくい。

- ・「予期せぬ本との出会いがあった」が約4割以上を占めた。
- ・「非常に良かった」「よかった」が約45%を占めた。

8 Remote Library+にあるとよい機能はなんですか？

項目	回答数	%
本を貸し借りできる機能	16	20.3%
本を取り寄せ・要望できる機能	15	19.0%
ソファ等のくつろげる場	11	13.9%
ブース席（半個室）	9	11.4%
個室	6	7.6%
複数人で利用できる会議用テーブル	0	0.0%
有人サービス機能（レファレンス等）	2	2.5%
飲食を販売する機能	6	7.6%
物販機能	4	5.1%
その他	8	10.1%
無回答	2	2.5%
小計	79	100.0%



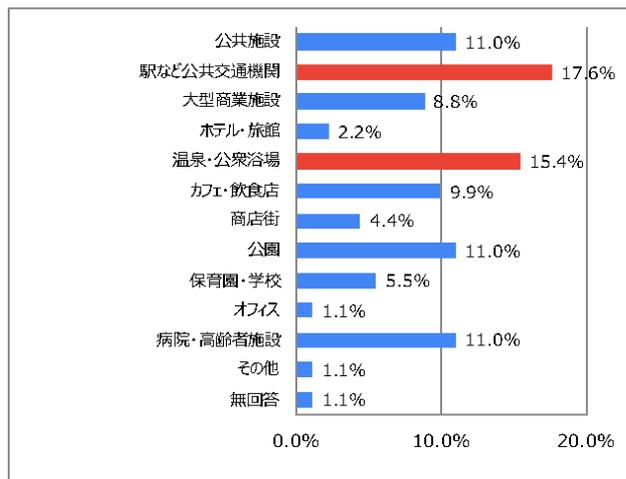
<その他>

隣の席にもアクリル板がましい。本と席を話してもよい。
 食はいらないけど、せめて飲み物があれば。
 おすすめの本が読めるところが良い。
 向かい合わせのテーブルではなく、外に向けての開放感のあるつくりだとストレスが軽減されるのでは。
 別府の図書館のショボさは異常。図書館、その他教育・教養部門の充実をはからなければ、市民の教養レベルも下がると思う。
 駅構内の書店やカフェと連携して本や飲料の購入ができるようになると思います。
 壁に向かって座る席の方がよいかも、ソーシャルディスタンスは1mでは？
 席が離れている方が今は安心できる。
 今は機能を集めても人が使わない。

・「本を貸し借りできる機能」「本を取り寄せ・要望できる機能」が約20%ずつを占めた。

9 Remote Library+があつたらよいと思う場所はどこですか？

項目	回答数	%
公共施設	10	11.0%
駅など公共交通機関	16	17.6%
大型商業施設	8	8.8%
ホテル・旅館	2	2.2%
温泉・公衆浴場	14	15.4%
カフェ・飲食店	9	9.9%
商店街	4	4.4%
公園	10	11.0%
保育園・学校	5	5.5%
オフィス	1	1.1%
病院・高齢者施設	10	11.0%
その他	1	1.1%
無回答	1	1.1%
小計	91	100.0%



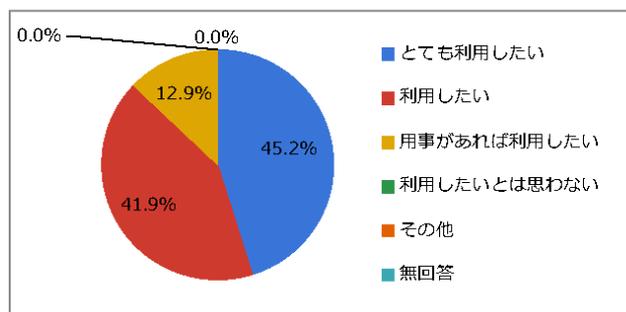
<その他>

おおいたシェアサイクルのポートとコラボ

・「駅などの公共交通機関」「温泉・公衆浴場」が15%以上を占めた。
 ・「公共施設」「公園」「病院・高齢者施設」も11%ずつを占めた。

10 Remote Library+があれば、今後も利用したいと思いますか？

項目	回答数	%
とても利用したい	14	45.2%
利用したい	13	41.9%
用事があれば利用したい	4	12.9%
利用したいとは思わない	0	0.0%
その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
小計	31	100.0%

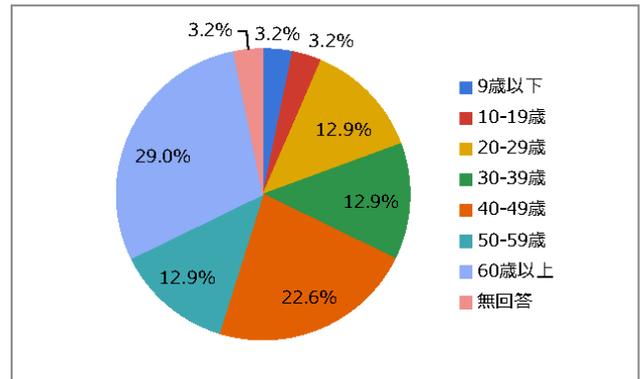


・「とても利用したい」「利用したい」が約87%を占めた。

10-1. 年齢

項目	回答数	%
9歳以下	1	3.2%
10-19歳	1	3.2%
20-29歳	4	12.9%
30-39歳	4	12.9%
40-49歳	7	22.6%
50-59歳	4	12.9%
60歳以上	9	29.0%
無回答	1	3.2%
小計	31	100.0%

・20～60歳以上まで、多世代に渡って偏りなく利用された。



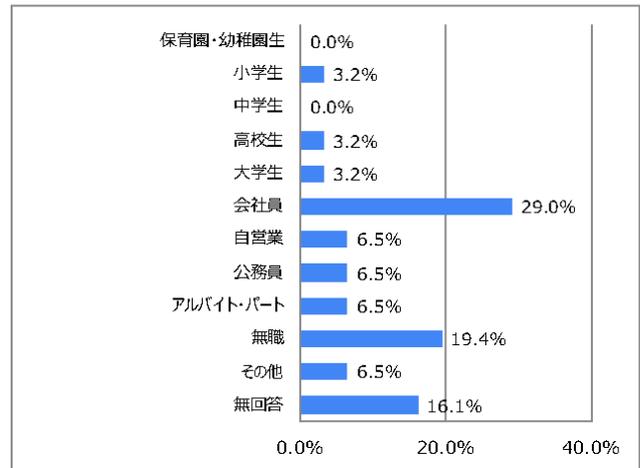
10-2. 所属

項目	回答数	%
保育園・幼稚園生	0	0.0%
小学生	1	3.2%
中学生	0	0.0%
高校生	1	3.2%
大学生	1	3.2%
会社員	9	29.0%
自営業	2	6.5%
公務員	2	6.5%
アルバイト・パート	2	6.5%
無職	6	19.4%
その他	2	6.5%
無回答	5	16.1%
小計	31	100.0%

<その他>

主婦、学校関係

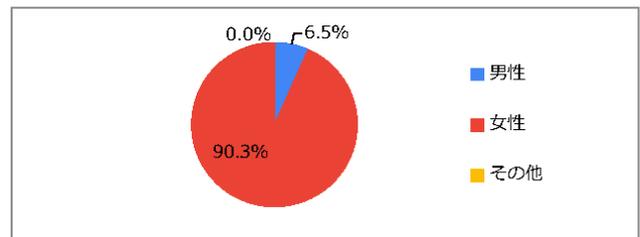
・「会社員」が約30%を占めた。



10-3. 性別

項目	回答数	%
男性	2	6.5%
女性	28	90.3%
その他	0	0.0%
小計	30	96.8%

・女性の回答者が90%以上を占めた



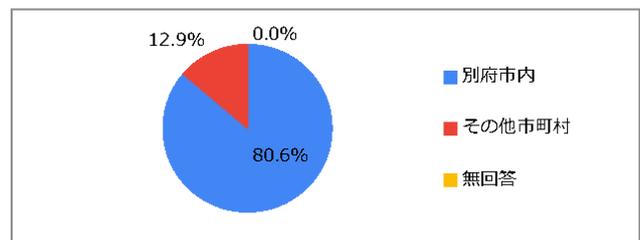
10-3. 住所

項目	回答数	%
別府市内	25	80.6%
その他市町村	4	12.9%
無回答	0	0.0%
小計	29	93.5%

<その他>

大分市2、宇佐市、杵築市

・「別府市内」が約80%を占めた。



(3) 今後の検討課題

利用状況や本事業に対する反響などを踏まえ、今後の検討課題を下記にまとめる。

別府市内 3 箇所にリモートライブラリープラスを設置したが、1 日平均 90 人近い人に利用いただいた。20～40 代など若年世代を中心に、多様な世代が利用されたことが、アンケート、IoT カメラでの画像解析により明らかになった。図書館を年に 2～3 度利用するライトユーザーの利用が目立ったこと、30 分以内の利用が 8 割以上を占めたことが特筆される。日ごろ図書館を利用しない層や「すきま」時間に本に接することが少なかった年代にもアプローチができたと捉えている。子ども連れの利用者が読み聞かせする風景や、本が気になって立ち読みしている社会人など、日常生活での本との予期せぬ出会いを創出する事業となった。

また、リモートライブラリープラスを設置したいという企業や教育現場等から声もあり、民間事業者や公共施設等との連携により、さらに市内へと分散できる展開可能性が広がった。

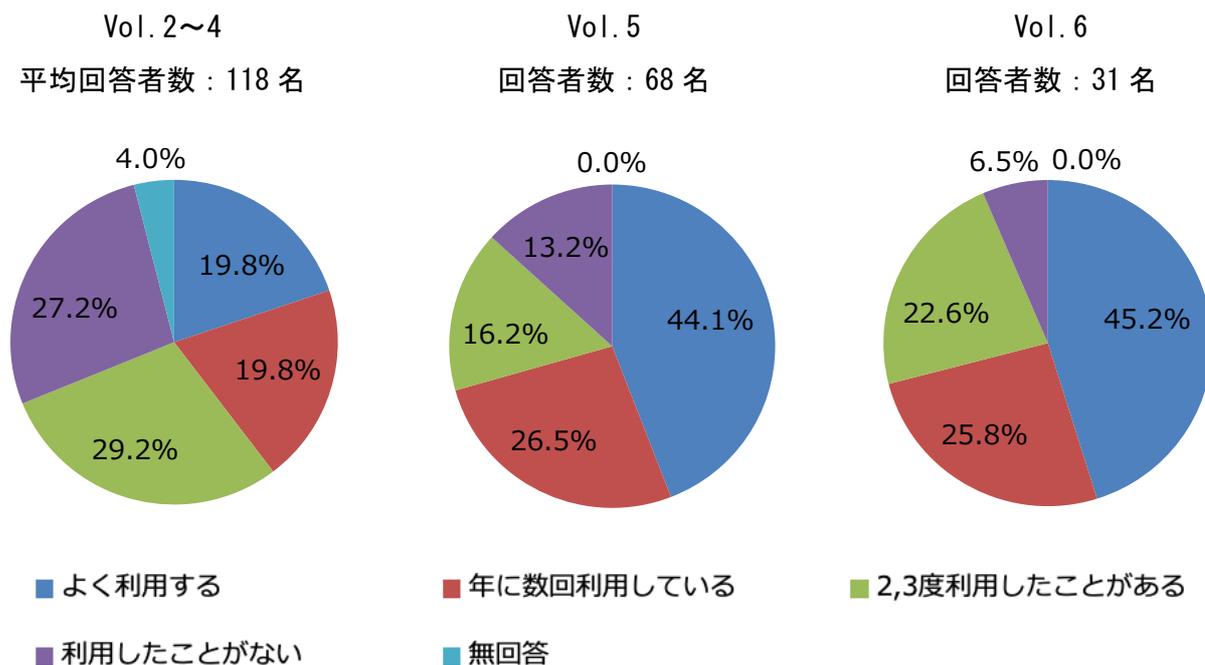
今後の課題として、「本の貸し借り」「本の取り寄せや要望機能」を要望する意見が多く、デジタルツールやアプリなどの導入も検討しながら、図書館本館と連携させていくしくみづくりを行う。また、選書や本の提供を、民間事業者や地域団体、市民等と連携して行うなど、リモートライブラリープラスの展開モデルを構築する。導入や運営への関わり方は、民間事業者、地域団体、市民等のそれぞれのニーズや負担力に応じ、いくつかメニューをつくっておく必要があると考えられる。

資料編

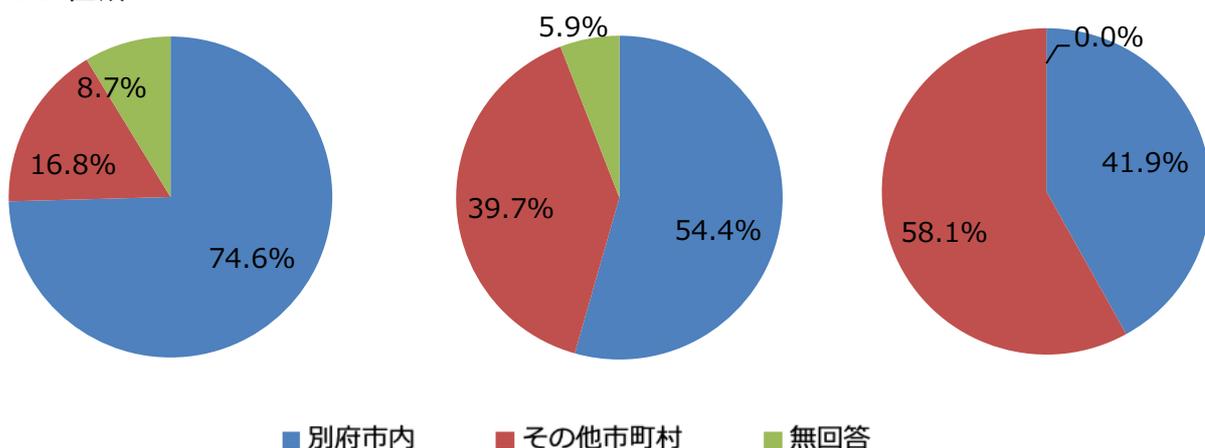
1 オープンプラットフォーム会議 アンケート比較

オープンプラットフォーム会議 vol.2~4（ビフォーコロナ）と、今年度開催した vol.5、vol.6 のアンケート結果を比較検証する。

Q1. 現在、図書館を利用していますか？

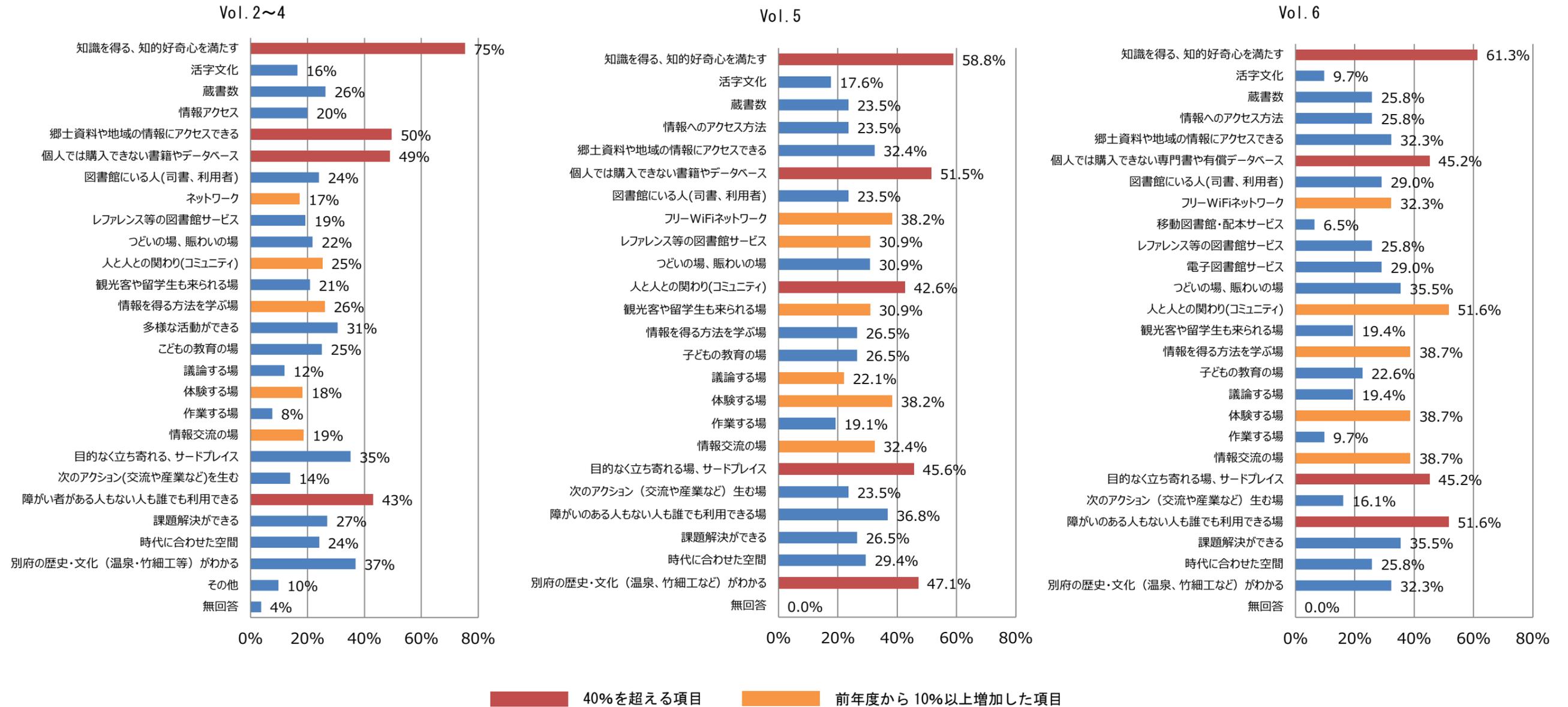


Q10-3. 住所



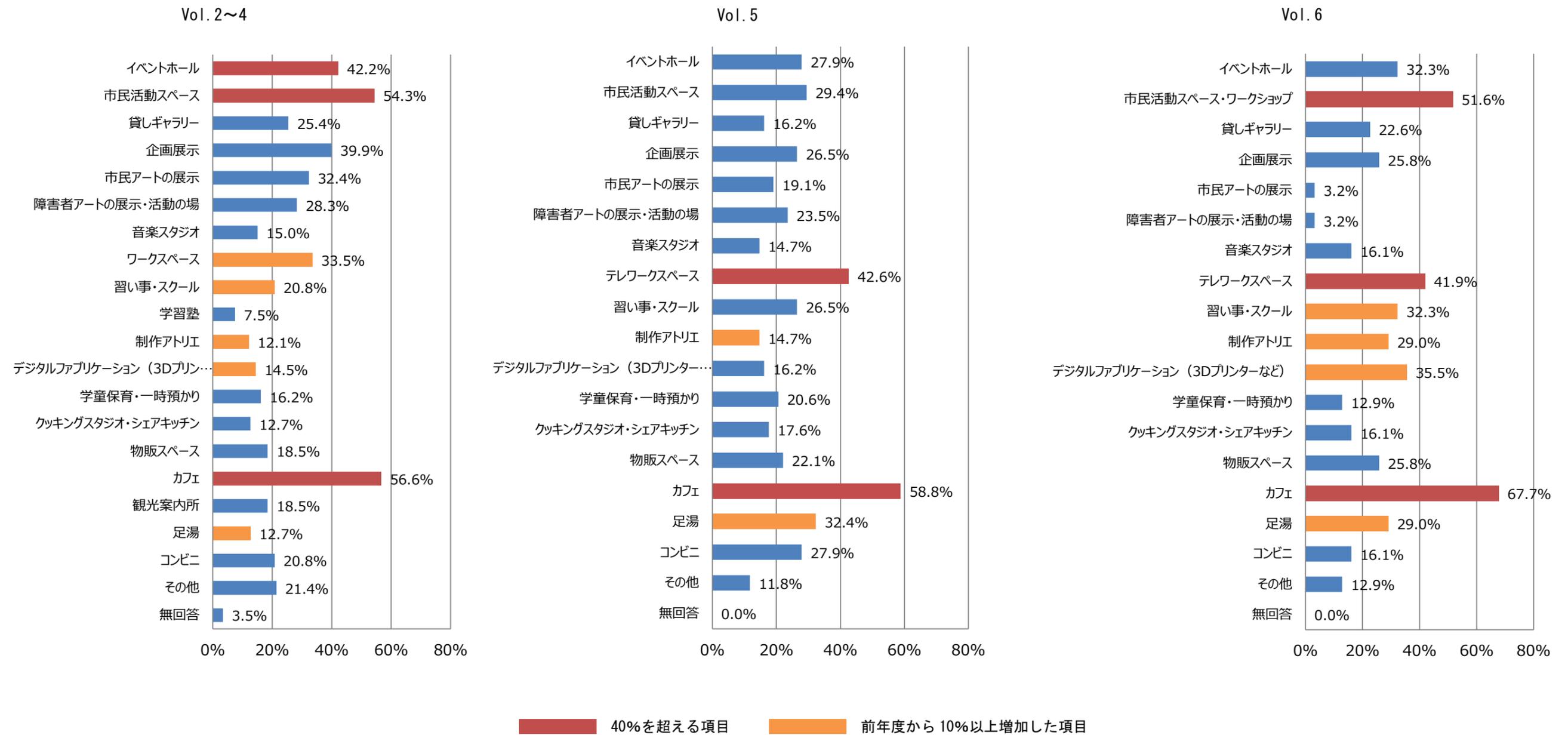
- ・昨年度（vol.2~4）までは、別府市内の参加者が75%であったが、今年度（vol.5~6）はコロナ禍の影響でオンライン開催となったこと、またリアル会場においても入場人員を制限したことから、市民は4~5割程度にとどまった。一方、市外参加者が約4~6割程度に増えた。
- ・Vol.4(令和元年1月20日開催)までは、「よく利用する」が2割前後であったが、今年度は45%

Q2. あなたにとっての図書館の重要な役割や機能は何ですか？



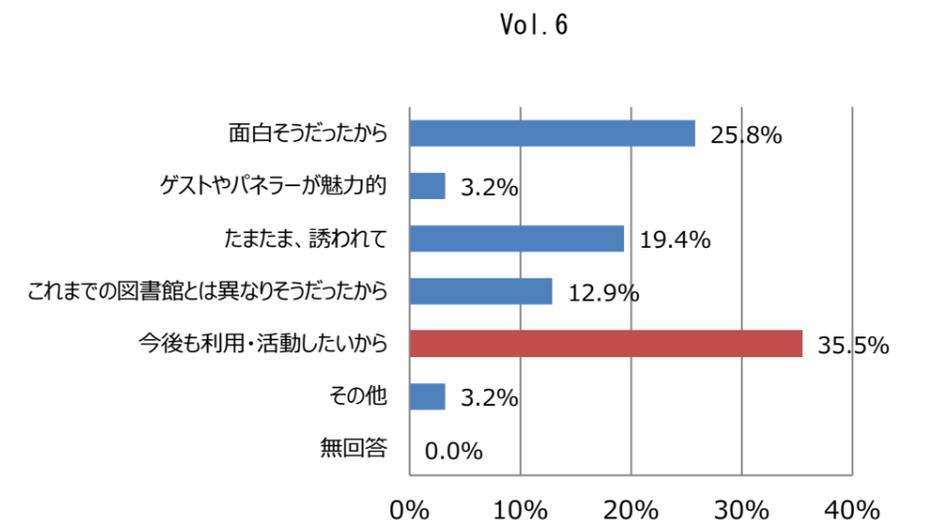
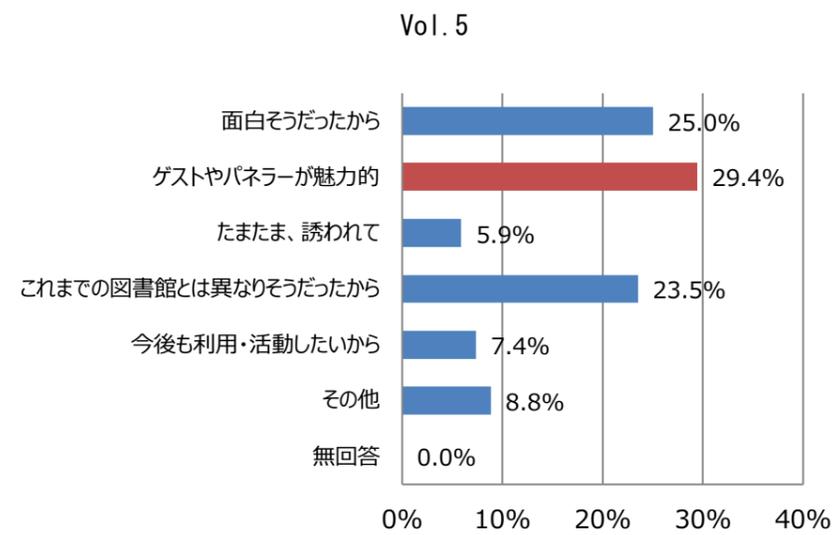
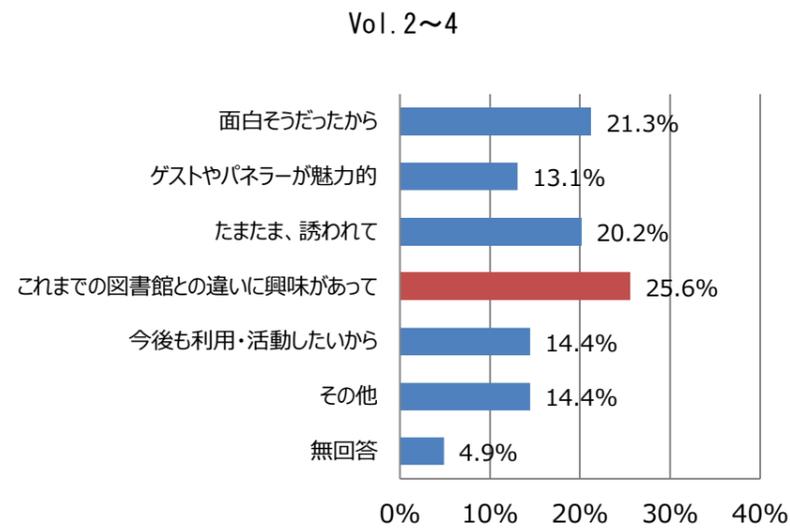
- 全ての回に共通して「知識を得る、好奇心を満たす」「個人では買えない書籍やデータベース」が重要と答える人が過半数以上を占めている。
- 今年度に増加した項目として「フリーWiFi ネットワーク (17→38%)」「人と人との関わり (コミュニティ) (25→51%)」「体験する場 (18→38%)」が倍増し、「情報を得る方法を学ぶ場 (26→38%)」「情報交流の場 (19→38%)」「目的なく立ち寄れる、サードプレイス (35→45%)」が10%増加した。
- 一方、「郷土資料や地域の情報にアクセスできる」は、今年度は減少し、Vol.6 では32%程度となった。

Q 3. 図書館にどのような複合機能があれば利用したいですか？



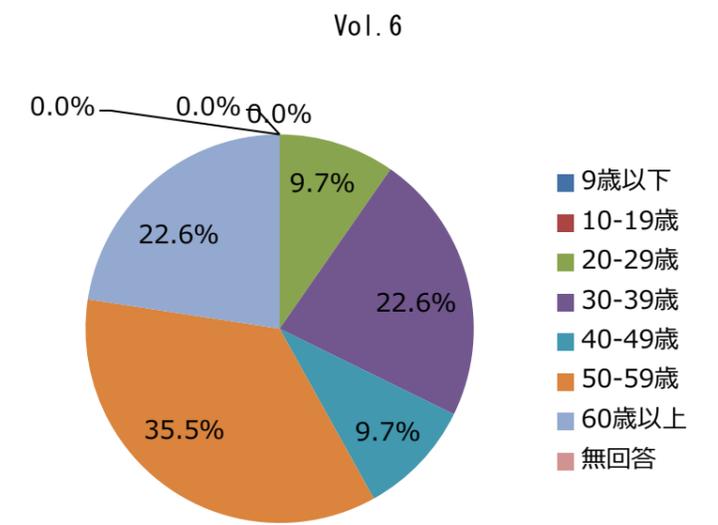
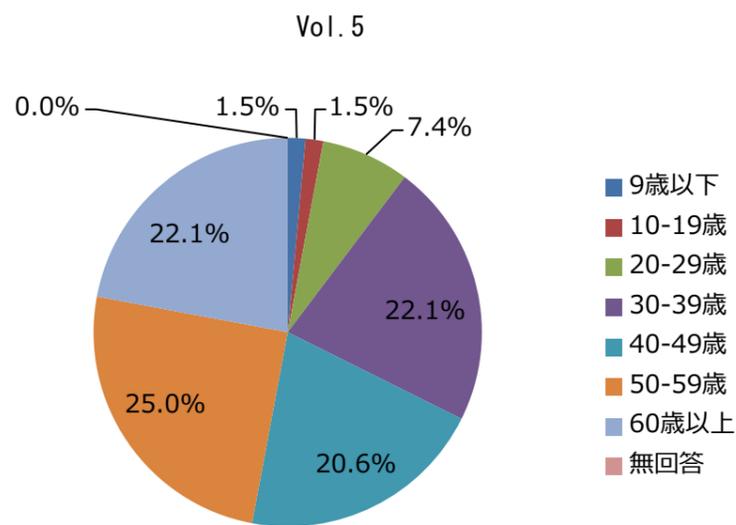
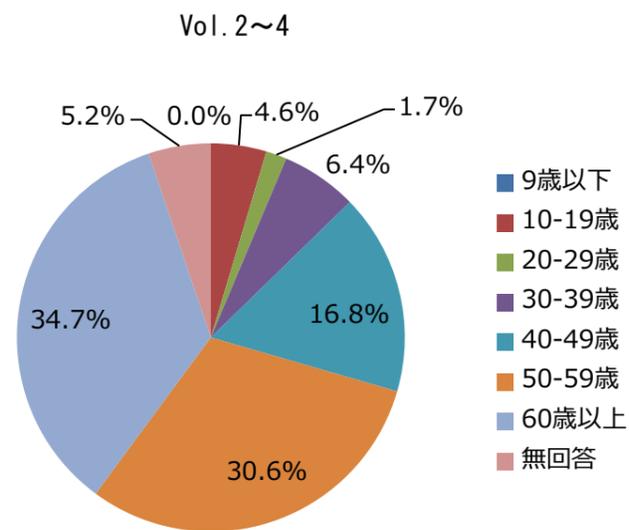
- 全ての回に共通して「カフェ」が過半数以上を占めた。
- 今年度10%以上増加した項目として「テレワークスペース (33→42%)」「習い事・スクール (20→32%)」「制作アトリエ (12→29%)」「デジタルファブ리케이션 (14→35%)」「足湯 (12→32%)」となっている。
- 「市民アートの展示」「障害者アートの展示・活動の場」が約30%→3%に激減している。参加者属性(年代、居住地など)の変化や、テーマも影響していると考えられる。

Q5. 今回のオープン・プラットフォーム会議に参加した理由はなんですか？



・各回で、参加者の属性やテーマによって参加理由が異なっている。

Q10-1. 年齢



・昨年度までは、50代以上が7割以上を占めていたが、今年度は20~30代の参加者が8%→約30%を占めた。

・昨年度までは、40代以下の参加が3割以下であったが、今年度はvol.5が過半数、vol.6では約4割となり、40代以下の参加が昨年度より増加した。